

令和 6 年 6 月 20 日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01398

研究課題名（和文）出産の危機状況を医療、女性の身体、子供の命の視点から解明するエスノグラフィー研究

研究課題名（英文）Ethnographic research to explore the crisis of childbirth from the perspectives of medicine, the female body and lives of children.

研究代表者

安井 眞奈美（Yasui, Manami）

国際日本文化研究センター・研究部・教授

研究者番号：40309513

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,440,000円

研究成果の概要（和文）：現在、医療施設での出産が99%を占め、「病院やクリニックで産む」のが当たり前となっている。生殖医療の進んだ現在、医療施設でどのように妊娠、出産が行われているのかを明らかにするため、病院での参与観察と、妊産婦とその家族にインタビューを行った。流産、死産、新生児死などの「思いがけないお産」、中絶、コロナ禍での妊娠、出産なども含み、合計99人（延べ120件）にインタビューを行った。研究成果を基に、産科医や看護師、助産師などの医療従事者に向けてワークショップを開催し、医療従事者と、出産のために受診した女性やその家族とは十分なコミュニケーションがとれているのかについて発表し、多くの有益なコメントを得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果の学術的意義は、「病院やクリニックで産む」のが当たり前となった現在、これらの医療施設での妊娠、出産、中絶や流産、死産、新生児死といった「思いがけないお産」などの現状がなかなか把握できない中で、その一端を伝えることができた点にある。それに基づき、出産を「分娩」という医療施設の中での一つの出来事として捉えるのではなく、女性のライフサイクル全体を視野に含めて捉えることの重要性を指摘した。また研究成果の社会的意義は、リプロダクティブ・ヘルス・ライツが確立され、出産するのかしないのか、するとならいつどのようにするのか、女性たちは自ら決定できることを、改めて問い直す契機を提供できた点にある。

研究成果の概要（英文）：Today, 99% of births in Japan take place in medical facilities and "giving birth in a hospital or clinic" is the norm. In order to clarify how pregnancy and childbirth are conducted at medical facilities in today's advanced reproductive medicine, we conducted a series of observations at hospitals and interviews with expectant mothers and their families. A total of 99 women and their families were interviewed, for a total of 120 interviews, which included "unexpected births" such as miscarriages, stillbirths, and neonatal deaths, pregnancies and childbirth during the COVID-19 pandemic, as well as abortions. Based on the research findings, we conducted a workshop for obstetricians, nurses, midwives, and other healthcare professionals, where we presented and received many useful comments on whether there is sufficient communication between healthcare professionals and the women and their families who have visited the hospital for childbirth.

研究分野：文化人類学

キーワード：妊娠 出産 産科医療 流産・死産 エスノグラフィー ナラティブ 思いがけないお産 口唇裂・口蓋裂

1. 研究開始当初の背景

現在、医療施設での出産が99%を占め、「病院やクリニックで産む」のが当たり前となっている。そのような中で、産科医や看護師、助産師などの医療従事者と、産む女性やその家族とは、十分なコミュニケーションがとれているのだろうか。また妊娠中の出生前診断が広まっていく中で、いのちの選別が行われるような事態も起こり得るが、これを生命倫理の問題として社会全体で捉えようとする動きは希薄である。さらにリプロダクティブ・ヘルス・ライツが確立され、出産するのかわからないのか、するとしたらいつどのようにするのか、女性たちは自ら決定できるようになったにもかかわらず、日本の政府や社会は、出生率の低下を理由に女性に産むことを期待し、そのことは女性に対する一種の抑圧となっている。また現在の妊娠・出産・産後は医療施設における短期間のイベントとみなされ、女性の一生におけるライフサイクルの一環であるという捉え方はなされにくい。女性が、生みたい時に生みたい場所で生めるという状況にほど遠い日本の現状を、「出産の危機状況」と捉え、これを医療、女性の身体、子供の命の視点を取り入れ、フィールドワークによって解明しようと考えた。これが研究開始当初の背景である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、現代日本における妊娠・出産・産後のおかれた状況を「危機状況」と捉え、医療、女性の身体、子供の命といったさまざまな切り口から、産科医療の現場において、文化人類学的手法を用いたエスノグラフィーの作成を行う。それをもとに、妊娠・出産・産後の「危機状況」を変えていくために何ができるかを議論し、それを社会に対して情報発信するという社会貢献を目指す。

3. 研究の方法

いくつかの医療機関で参与観察とインタビューを含むフィールドワークを実施し、その成果をもとに、病院での妊娠、出産、産後にかけてのエスノグラフィーを作成する。

インタビュー内容については、医療者と患者間のコミュニケーションの在り方について考察を行うために、あらかじめ質問項目を決めておく。インタビューは、倫理申請を経た各医療機関において、病院外来で参与観察をしながら、産科医の診察に立ち会い、診察後に妊産婦の同意のもとで行う。また、研究代表者、研究分担者が定期的にオンラインで話し合いの場をもち、患者が特定されない範囲において、情報交換および現状把握にむけてのディスカッションを行う。

インタビューは、おもに大阪大学医学部附属病院 産科外来および胎児診断治療センター、大阪大学歯学部附属病院にて行った。

4. 研究成果

2019年5月に調査を開始し、インタビュー人数は、大阪大学医学部附属病院と大阪大学歯学部附属病院あわせて99人、延べインタビュー件数は120件となった。以下、研究の経過と成果を年度ごとに示し、最後に研究全体の成果を示す。

(1) 2019年度 本研究の基礎的なフィールドワークとして、安井、中本、松岡は、大阪大学医学部附属病院の産科外来および胎児診断治療センターにて外来診療に同席し、妊産婦およびその家族52名から同意書を取得した上で、51名にインタビューを行い、あわせて参与観察を実施した。また澤野は、これまで別の医療機関において継続してきたがん治療後の妊娠・出産に関する困難についてのインタビューを行った。倉田は、東京医科大学にて同様の調査ができるよう、倫理申請を行った。

また流産や死産、新生児死にどのように対応すればよいのかを学ぶため、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座にて臨床宗教師を招き、出産におけるグリーフケアのワークショップを開催した。また仙台医療センターを見学し、グリーフケアの取り組みを学び、情報交換を行った。松岡は、海外の出産に関する現状を踏まえて日本と比較し、女性にとって質の高いケア、患者と医者のコミュニケーションのあり方という視点から分析を行った。

これらを踏まえて、本研究の趣旨とこれまでの研究をより多くの人に知ってもらうため、日本民俗学会および京都民俗学会の合同談話会(2019年12月14日)にて、「思いがけないお産の民俗」と題したシンポジウムを企画し、科研代表者および分担者の7名が発表した。発表とコメントは『日本民俗学』303号(2020年)に「小特集・思いがけないお産の民俗」として掲載され、科研の研究の早い段階で趣旨や目的、展望を日本民俗学会を通して広く公表することができた。

(2) 2020年度 引き続き安井、中本、松岡は、大阪大学医学部附属病院の産科外来および胎児診断治療センターにて、伏見は、大阪大学歯学部附属病院にて口唇裂・口蓋裂の子どもを産み育てる女性やその家族にインタビューを行い、参与観察を実施した。安井は、分担者である産科医の木村、遠藤に現在日本の産科医療の現状と今後についてヒアリングを行った。またコロナ禍において対面での研究会開催が困難となったため、数回のweb会議を行い、成果を報告するとともに今後の方向性について議論した。研究協力者の波平恵美子は大阪大学医学部附属病院胎児診断治療センターにて「妊娠、出産、子育てが意味するものとその変遷 文化人類学の視点から」と題する講演を行った。

COVID-19 の感染拡大状況下において、感染に気を付けながら院内でのインタビューを実施するとともに、代替となる調査の実施を検討した。澤野は、若年がん経験者の女性を対象に妊娠・出産に関わる困難についてのインタビューを、オンライン形式にて9名に実施した。木村は、一般の妊婦の多くが、妊娠・出産を幸せな“自然なイベント”と捉えがちであるが、エビデンスによる現状を示し、感覚の差を埋めるための妊娠・出産に関する情報を発信した。

松岡は、母乳に焦点を当て、出産後の母親が病院でどのような母乳指導を受けているのか、また出産を経た女性たちがどのような困難を経験しているのか、インタビューを行った。日本では、女性が母乳か人工乳かを選択すればよいと言われているが、現実には多くの女性が母乳が出るなら母乳で育てたいと考えている点、またそれを受けて、このような女性の希望と、現実の出産施設における授乳への対応について明らかにする必要性を指摘した。

(3) 2021年度 コロナ禍のため、医療機関での調査方法を制限せざるを得なかったが、そのような現状を踏まえ、コロナ禍の出産について学会誌にて研究成果を発表した。安井・中本・伏見は、コロナ禍の病院の対応から、妊産婦が一人で受診して医師の説明を聞かなければならないストレスなどを明らかにした(安井・中本・伏見「コロナ禍のお産 妊産婦と家族にとっての「思いがけないお産」」『日本民俗学』2021)。木村は、日本産科婦人科学会会員に対してコロナ禍の調査を行い、妊婦も産婦人科医師も共に流行地においては非流行地に比べて心的ストレスが大きいことなどを示した(Umazume et al. JOGR 2021 “The physical and mental burden on obstetricians and gynecologists during the COVID-19 pandemic: A September 2020 questionnaire study”)。遠藤は、外来診察に立ち会っていない調査者でも、外来診察後にオンラインでインタビューできるコロナ禍での調査方法を整えた。松岡は、出産場所として法的に認められている助産所や自宅での出産が危機にさらされている事例を検討し、その背後にある助産所の開業をめぐる法制度を調べ、問題の要因と解決への道筋を検討した。倉田はオンラインを用いて看護師・助産師への聞き取りを開始し、授乳のトラブルなど産後の「思いがけない」事態に対して、産後サポートに特化した助産所などが増えている現状を明らかにした。澤野はアメリカのオクラホマ大学にて研究活動に従事し、若年がん患者や乳がんの特化した学会の研究大会に参加し、あわせて乳がん患者の妊娠・出産に関する研究の準備段階となる情報収集を行った。伏見は大阪大学歯学部附属病院、口唇裂・口蓋裂のある子どもを産み育てる女性の経験について、引き続きインタビューを行った。

(4) 2022年度 コロナ禍から少し感染が落ち着いたため、上記の調査を継続した。データをまとめる方法およびエスノグラフィーの作成についての議論も併せて行った。

(5) 2023年度 コロナ禍により本研究の終了を一年延期し、繰越金を利用して研究成果をまとめた。そして、2024年3月22日に大阪大学医学部附属病院(周産期カンファレンスルーム)にて、「周産期医療の現場における医療者と妊産婦、その家族とのコミュニケーションに関する調査報告会」を開催し、協力いただいた医療従事者の方々に向けて本科研の成果報告を行い、その後ディスカッションを行った。今回は医療者に向けて「医療者と妊産婦・その家族は、きちんとコミュニケーションがとれているのか？」というテーマに特化して、科研代表者・分担者全員が登壇し発表した。これらの成果については学会誌にて報告を準備しているため、以下、プログラムのみを示しておく(肩書は当時のもの)。

挨拶 遠藤誠之(大阪大学大学院医学系研究科)

趣旨説明と調査方法について 安井眞奈美(国際日本文化研究センター)

調査報告1「肩越しに見た医療者 妊産婦間のコミュニケーション」

中本剛二(大阪大学大学院医学系研究科)松岡悦子(奈良女子大学名誉教授)安井眞奈美

調査報告2「口唇裂・口蓋裂のある子どもを産み育てる女性の経験」伏見裕子(大阪公立大学工業高等専門学校)

調査報告3「若年がん患者・経験者の妊娠・出産にまつわる困難について」澤野美智子(立命館大学総合心理学部)

調査報告4「フェムテックが生みだす授乳経験」倉田誠(東京医科大学医学部)

質疑応答

総括 木村正(大阪大学大学院医学系研究科・教授)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計47件（うち査読付論文 17件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 15件）

1. 著者名 Yasui Manami	4. 巻 35
2. 論文標題 Imagining the Spirits of Deceased Pregnant Women: An Analysis of Illustrations of Ubume in Early Modern Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japan Review	6. 最初と最後の頁 91-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 安井真奈美、中本剛二、伏見裕子	4. 巻 307
2. 論文標題 「コロナ禍のお産 妊産婦と家族にとっての「思いがけないお産」」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 120-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 中本剛二	4. 巻 1
2. 論文標題 「COVID-19流行下での妊娠・出産の変容と困難 - 大学病院で出産した人への縦断的インタビュー調査をもとに」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪医科薬科大学 薬学部雑誌	6. 最初と最後の頁 77-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 Vol.35、No.2
2. 論文標題 「戦前の大日本産婆会の運営と課題についての考察 大日本産婆会総会並大会の議案をもとに」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本助産学会誌	6. 最初と最後の頁 101-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3418/jjam.JJAM-2020-0035	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Umazume, T. Miyagi, E. Haruyama, Y. Obata, S. Kobashi, G. Kurasawa, K. Suzuki, Y. Ikeda, T. Kimura, T. Yamada, H.	4. 巻 47
2. 論文標題 The physical and mental burden on obstetricians and gynecologists during the COVID-19 pandemic: A September 2020 questionnaire study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 J Obstet Gynaecol Res	6. 最初と最後の頁 3001-3007
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安井真奈美	4. 巻 303
2. 論文標題 「思いがけないお産の民俗」から見えてくること	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 57-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安井真奈美	4. 巻 303
2. 論文標題 「思いがけないお産」の研究と今後の課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 128-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安井真奈美	4. 巻 20
2. 論文標題 「出産と妊産婦・胎児の死 四半世紀の研究 (1995-2020)」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 比較日本文化研究	6. 最初と最後の頁 32-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伏見裕子	4. 巻 25
2. 論文標題 「安産中心史観」再考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究紀要	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伏見裕子	4. 巻 303
2. 論文標題 口唇裂・口蓋裂の民俗	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 68-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 澤野美智子	4. 巻 303
2. 論文標題 「小特集「思いがけないお産の民俗」へのコメント 文化人類学の立場から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 117-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中本剛二	4. 巻 303
2. 論文標題 「不育症という経験」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 88-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 5
2. 論文標題 「母乳・フェミニズム・授乳フォト アメリカと日本の比較より」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア・ジェンダー文化研究	6. 最初と最後の頁 39-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松岡悦子	4. 巻 303
2. 論文標題 「「思いがけないお産の民俗」へのコメント 文化人類学の立場から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 122-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤誠之	4. 巻 303
2. 論文標題 「産科医療における“思いがけない”お産」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本民俗学	6. 最初と最後の頁 60-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YASUI Manami	4. 巻 74(1)
2. 論文標題 The Transformation of Fetus Perspectives in Japan: Considering Perinatal Grief Care	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 New Orient	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計50件（うち招待講演 14件 / うち国際学会 13件）

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 「助産師の活躍と医師のサポートが未来の処方箋」
3. 学会等名 シンポジウム『がんばれ助産院始動！』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 「コロナ禍の日本におけるフィールドワークの「困難さ」」
3. 学会等名 日本学会議公開オンラインシンポジウム「コロナ時代におけるフィールドワーク教育をめぐって」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 「性差の民俗 胎児の性別占いと胎児観」
3. 学会等名 第15回人類学関連学会協議会（CARA）合同シンポジウム「性差」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 「絵馬に描かれた病いと身体」
3. 学会等名 国際交流基金ブダベスト日本文化センター オンライン日本研究セミナー「日本社会論」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 「大日本産婆会總會並大会の議案が語りかけること」
3. 学会等名 産婆・助産婦の近代を掘り起こすー京都府・大阪府助産師会保存資料を中心に
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Impact of MDGs on Reproductive Health of Women in Rural Bangladesh.
3. 学会等名 IUAES (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kanda M, Mimura K, Honda H, Kawanishi Y, Nakatsuka E, Miyake T, Kawano M, Hiramatsu K, Kakigano A, Kimura T, Endo M, Kimura T.
2. 発表標題 Successful multiple intrauterine transfusion for the fetus who revealed hydrops from 17 weeks gestation due to high anti-D antibody titers
3. 学会等名 第72回日本産科婦人科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 八木麻未, 上田豊, 谷口茉莉子, 池田さやか, 松崎聖子, 平松宏祐, 瀧内剛, 木村敏啓, 小林栄仁, 木村正.
2. 発表標題 育児中の母親の孤独感に関するアンケート調査
3. 学会等名 第72回日本産科婦人科学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 The Transformation of Fetus Perspectives in Japan: Considering Perinatal Grief Care
3. 学会等名 Symposium: Crossing Borders: Past and Future of Japanese Studies in the Global Age, at the Oriental Institute of the Czech Academy of Sciences (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 Visualizing the Fetus in Pre-modern and Modern Japan: Reading Illustrated Manuals, Magazines and Guidebooks for Pregnant Women
3. 学会等名 医の世界における明清細工と江戸風物の邂逅 (Medical Fine Art in Ming-Qing and Edo, 17-19 Century), 北京大学医学史研究センター・北京大学科学技術医学史系・北京大学医学人文学院 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 Imaging the Spirit of a Deceased Pregnant Woman: Towards a Transcultural study of the Spiritual World
3. 学会等名 Conference at the East Asian Languages and Cultures, Columbia University/日文研 日本における聖なるもの、差別、そして死者の霊 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 「思いがけないお産の民俗」から見えてくること
3. 学会等名 第908回日本民俗学会談話会・第321回京都民俗学会談話会「思いがけないお産の民俗」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 出産と身体に関する研究を振り返る
3. 学会等名 第21回比較日本文化研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安井真奈美
2. 発表標題 Death in Childbirth: Perinatal Grief Care in Japan
3. 学会等名 Special lecture at the Mothers and Babies Research Centre of the Priority Research Centre for Reproductive Science, University of Newcastle, Australia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤野美智子
2. 発表標題 コメント：医療人類学の立場から
3. 学会等名 第908回日本民俗学会談話会・第321回京都民俗学会談話会「思いがけないお産の民俗」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 コメント：文化人類学の立場から
3. 学会等名 第908回日本民俗学会談話会・第321回京都民俗学会談話会「思いがけないお産の民俗」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 Impact of Reproductive Health Policies on Women's Health; MDG 5 and BPJS
3. 学会等名 Symposium at the Center for Population and Policy Studies, Universitas Gadjah Mada (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 バングラデシュ農村におけるリプロダクションの変容と女性の健康
3. 学会等名 第9回家族社会学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 バングラデシュ農村における妊娠・出産経験の変容
3. 学会等名 第34回国際保健医療学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松岡悦子
2. 発表標題 母乳をめぐる歴史と文化
3. 学会等名 第115回日本精神神経学会学術総会 委員会シンポジウム17 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中本剛二
2. 発表標題 不育症という経験
3. 学会等名 第908回日本民俗学会談話会・第321回京都民俗学会談話会「思いがけないお産の民俗」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伏見裕子
2. 発表標題 口唇裂・口蓋裂の民俗
3. 学会等名 第908回日本民俗学会談話会・第321回京都民俗学会談話会「思いがけないお産の民俗」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠藤誠之
2. 発表標題 産科医療における「思いがけない」お産
3. 学会等名 第908回日本民俗学会談話会・第321回京都民俗学会談話会「思いがけないお産の民俗」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 米井歩、佐藤友紀、遠藤誠之、管生聖子、金井講治、中本剛二、安井眞奈美、高橋正紀、酒井規夫、望月秀樹
2. 発表標題 多職種連携型グリーフケアへの試み 出生前診断のグリーフケアー認定遺伝カウンセラーができること
3. 学会等名 遺伝カウンセリング学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 安井真奈美	4. 発行年 2024年
2. 出版社 国際日本文化研究センター	5. 総ページ数 60
3. 書名 「浮世絵にみる妊産婦と胎児の身体イメージ」展図録 Maternal Health and Images of the Body in Japanese Ukiyo-e	

1. 著者名 安井真奈美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 276
3. 書名 『狙われた身体 病いと妖怪とジェンダー』	

1. 著者名 安井真奈美、ローレンス・マルソー、伊藤謙（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 国際日本文化研究センター	5. 総ページ数 63
3. 書名 『身体イメージの創造 感染症時代に考える伝承・医療・アート Constructing Images of the Body: Considering Folklore, Medical Practice, and Art in a Pandemic Era 』	

1. 著者名 安井真奈美（分担執筆） Manami Yasui	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 444
3. 書名 " Changing Folk Cultures of Pregnancy and Childbirth" in Jennifer Coates, Lucy Fraser, Mark Pendleton (eds.)The Routledge Companion to Gender and Japanese. (pp.135-145)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	遠藤 誠之 (Endo Masayuki) (30644794)	大阪大学・大学院医学系研究科・教授 (14401)	
研究分担者	中本 剛二 (Nakamoto Goji) (50724720)	大阪大学・大学院医学系研究科・特任助教(常勤) (14401)	
研究分担者	伏見 裕子 (Fushimi Yuko) (60747492)	近畿大学・文芸学部・講師 (54401)	
研究分担者	澤野 美智子 (Sawano Michiko) (00759376)	立命館大学・総合心理学部・准教授 (34315)	
研究分担者	松岡 悦子 (Matsuoka Etsuko) (10183948)	奈良女子大学・その他部局等・名誉教授 (14602)	
研究分担者	倉田 誠 (Kurata Makoto) (30585344)	東京医科大学・医学部・准教授 (32645)	
研究分担者	木村 正 (Kimura Tadashi) (90240845)	大阪大学・大学院医学系研究科・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------